

サウジアラビア王国皇太子 歓迎夕食会開催

サウジアラビア王国皇太子、サルマン・ビン・アブドゥルアジーズ・アール・サウド殿下が、去る2月18日から21日までの四日間、政府の賓客としてわが国を公式訪問した。皇太子の来日に際し、経済同友会・日本経済団体連合会・日本商工会議所・日本貿易会・日



本サウディアラビア協会は、2月21日、歓迎夕食会を経団連会館で開催した。サウジアラビア王国側からは、皇太子以下、国務大臣、文化情報大臣、経済企画大臣等の政府関係者のほか、皇太子に同行した企業経営者一行、65名が出席した。経済同友会からは、志賀俊之アジア委員会委員等が出席した。

夕食会では、まず、米倉弘昌日本経済団体連合会会長が歓迎挨拶を行い、日本とサウジアラビアが長年にわたる信頼と友好の絆で結ばれており、相互理解の促進や、さらなる関係緊密化を進めることが



重要とした。また、昨年の安倍晋三首相のサウジアラビア訪問に際し、両国間の包括的パートナーシップの強化につき合意されたことは、日本の経済界としても大変心強いと述べた。これに対してサルマン皇太子は、両国の良好な関係が維持され、多くの分野で投資が拡大していることを評価した。また、産業のみならず、学術など幅広い分野でも関係を推進し、緊密な交流が継続されることへの期待を示された。